



8月の園だより



今月の予定

平成 29年 8月 1日

さかえ保育園

1日(火)	包丁練習(ゆり)
2日(水)	体操教室
3日(木)	季節の食材紹介(乳・幼児)
4日(金)	
5日(土)	
6日(日)	
7日(月)	とうもろこしの皮むき(つくし)
8日(火)	誕生会
9日(水)	体操教室 ラップおにぎり作り(幼児)
10日(木)	
11日(金)	(祝)山の日
12日(土)	
13日(日)	
14日(月)	包丁練習(ゆり)
15日(火)	
16日(水)	
17日(木)	お箸指導(れんげ)
18日(金)	英語教室
19日(土)	
20日(日)	
21日(月)	とうもろこしの皮むき(すみれ・れんげ)
22日(火)	
23日(水)	体操教室 ラップおにぎり作り(幼児)
24日(木)	枝豆のさや出し(たんぼぼ) 乳児健診
25日(金)	
26日(土)	
27日(日)	
28日(月)	観劇会
29日(火)	プール終い お箸練習(ゆり)
30日(水)	体操教室
31日(木)	

夏真っ盛り!! 山へ海へ放浪に憧れるご家庭も多いかと思いますが、くれぐれも事故には気をつけて楽しいだけの夏の思い出を作ってください。この時期園長は野暮な仕事からやっと解放されじっくりと自園を見つめ直すことのできる時間ができます。

ここ最近、子どもの認知能力と非認知能力というものがクローズアップされてきていますが、ざっくりと説明すると数値で評価できるものを認知能力、数値で評価しづらいものを非認知能力と分類されています。

もっぱら小学校受験を目指すための進学塾等では、明確に認知能力を高める授業がされますが、実は小学校以降の学力差にはほとんど影響されないという研究結果が出ています。それに対して非認知能力を育成することが、幼少時期に生まれた子どもの社会的成功率が高い結果も出ています。それでは非認知能力はどのようなことをすると育まれやすいのでしょうか?それを端的に示したスウェーデンの子育て講座なるものを見つけましたのでご紹介します。

批判ばかりされた子どもは 非難することをおぼえる
殴られて大きくなった子どもは 力に頼ることをおぼえる
笑いにされた子どもは ものを言わずにいることをおぼえる
皮肉にさらされた子どもは 鈍い良心の持ち主になる

しかし

激励を受けた子どもは 自信をおぼえる
寛容に出会った子どもは 忍耐をおぼえる
称賛を受けた子どもは 評価することをおぼえる
フェアプレイを経験した子どもは 公正をおぼえる
友情を知る子どもは 親切をおぼえる
安心を経験した子どもは 信頼をおぼえる
可愛がられ抱きしめられた子どもは 世界中の愛情を感じとることをおぼえる

非認知能力とは数値で評価されない、生きていくために必要な自己肯定、我慢、正しい判断、そばにいる人に手を差し伸べることのできる心、誰からも愛され周りの人を愛することのできる心を持つということです。これは成績表に記されるようなものではないけれど、本当の生きる力はこんなことで育まれると思います。

— 園 長 —



給食より

「熱中症・夏バテについて」

熱中症予防のために

- 規則正しい食生活をすると共に、こまめな水分・塩分補給をする事が大切です。
- 3食を主食・主菜・副食を揃えた、偏りのないバランスの良い食事をしっかり食べましょう。
 - 喉が渇く前、起床時や、入浴前後にも水分補給(ジュース等の甘いものではなく、麦茶など)をしましょう。
 - 小さな子どもは自分でのどが渇いたと言えないので意識して与えましょう。

夏バテ予防のために

- 特に、タンパク質やビタミン・ミネラル類をしっかりとることが効果的です。
- 大豆食品、卵、肉、魚、牛乳など消化のよいタンパク質をとりましょう。
 - ビタミンB群：豚肉・レバー・魚(赤身の魚)・貝類(アサリ・カキ・シジミ)ウナギ・玄米・フロッコリー
枝豆・パセリ・にら・ごま等

○きゅうり、スイカ、トマト、ゴーヤ、オクラ、レタス等の夏が旬の野菜や果物。

まだまだ暑い日が続きますが、熱中症・夏バテにならないように予防し、元気に過ごしましょう!



保健より



乳幼児は、体が小さくても汗腺の数は大人とほぼ同じです。さらに新陳代謝が活発なため、高温多湿の環境に長時間いるとたくさんの汗をかきます。夏は肌トラブルに注意してあげたい季節です。

【あせも】

汗やほこりで汗腺がふさがると、炎症を起こして、赤くフツフツしたあせもができます。あせもが増えるとかゆみが強くなり、かきむしると化膿したり、とびひになったりすることもあります。

(対策)汗をかいたらこまめに拭き取るか、シャワーで汗を流すようにしましょう。食事やお昼寝など落ち着いて快適に過ごしたい時は、エアコンを上手に活用しましょう。

【とびひ】

虫刺されや皮膚炎でできた傷に細菌が感染することにより炎症を引き起こした状態です。患部が水疱状になり、水疱が破れ滲出液が他の皮膚に接触した部分が感染していきます。

(対策)じくじくした傷ができたなら早めに病院を受診し治療しましょう。薬で他の部位への感染も予防でき、傷もすぐに良くなります。また、シャワー等で皮膚の清潔を保ち、爪を短く切りましょう。

☆今月の誕生児☆

